高等学校の学科改編について

高校教育課

１　学科改編について

県立高等学校においては、平成 30 年９月に策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」により、「新たな教育の推進」と「新たな学校づくり」に一体的に取り組んでいる。

こうした改革の状況を踏まえ、また、各校の教育課題に対応した探究的な学びをさらに推進するため、要望のあった下記の２校について、長野県立高等学校管理規則第２条に定める学科の改編を行う。

２　実施時期

令和８年４月１日

３　改編内容

（１）改編対象

① 岡谷工業高等学校　全日制

改編前

大学科名	小学科名
工　業　科	機　械　科
	電　気　科
	環　境　化　学　科
	電　子　機　械　科
	情　報　技　術　科

→

改編後

大学科名	小学科名
工　業　科	機　械　工　学　科
	電　気　工　学　科
	電　子　機　械　科
	情　報　技　術　科

② 上伊那農業高等学校　全日制

改編前

大学科名	小学科名
農　業　科	生　物　生　産　科
	生　命　探　究　科
	アグリデザイン科
	コミュニティデザイン科

→

改編後

大学科名	小学科名
農　業　科	つくるマネジメント科
	流通マネジメント科
	くらしマネジメント科

（２）新学科の概要

①岡谷工業高等学校　全日制

学校名	新学科名	新学科の概要
岡谷工業	機械工学科 電気工学科 電子機械科 情報技術科	**１　改編理由** 岡谷工業高校は、「人格の形成をめざし、社会の一員としての必要な資質・能力を養うため、教養を高める」「日本の工業の当地区発展を支える技術者として、地域に根差した教育活動から、技能・知識・態度を修得する」ことを目指し、環境化学科・機械科・電子機械科・電気科・情報技術科の５学科を設置し、地域の産業を支える製造業に多くの技術者を輩出し地元に寄与してきた。 一方、現在は近年の少子化に伴い令和６年度入学生から160名募集（4クラス規模）の５学科編成という変則的な状態になっている。 これまで本校は岡谷諏訪地域の産業界の変遷や時代に合わせて学科改編を行い地域産業界に貢献してきた。現在の地域産業の業種割合は、金属製品製造・機械器具製造・電子部品製造・電気機械器具製造で８割を超えており、化学工業系のみの業種は少なく、今後は複合的な技術の習得が求められる状況となっている。 このような状況を踏まえ、現在の地域産業界に貢献できる人材を育成するために、本校の学びを集約し必要な専門性を高めていくために下記３のように４学科に改編する。 第三次高校再編計画において本校と諏訪実業高校を統合し新たに「岡谷諏訪総合技術新高校(仮)」とする案が示され、現在地域懇話会で新校の在り方の議論を進めている。懇話会の議論を注視し新校での工業教育の在り方を引き続き検討していき、新校にむけて他学科とのスムーズな再編計画の実施につなげいく。 **２　育成したい生徒像** 校是「技術者たる前に人間たれ」のもと、豊かな人間性と創造力及び実践力を身につけ、地域や社会の持続的な発展を担う生徒。 （１）地域と連携した主体的な活動を通じて、グローバルな視点を持った国内外で活躍できる生徒。 （２）「ものづくり」を通して工業技術の変化に対応できるスキルを身につけ、課題解決能力と主体的に学び続ける生徒。 **３　学科の内容と学びの特徴** （１）機械工学科 機械に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得するとともに、ものづくりを通して創造的な能力と実践的な態度を育て、技術革新の進展に主体的に対応できる技術者を養成する。 また、新たに金属表面処理技術（めっき・アルマイト処理等）の学習を座学と実習に加え、地元企業との連携事業の「めっき技術講習」も引き継ぎ、幅広い知識を持ち地元企業で活躍できる実践力を持った人材の育成を目指す。

		（２）電気工学科 　電気・電子・情報技術等の分野にわたって、それぞれの基礎知識・技術を習得するとともに、電気関係の幅広い分野に対応できる技術・技能を持った技術者を養成する。 　また、環境及びエネルギーに関する学習も取り入れ現代社会の諸問題に対応し、課題解決を図ることができる人材の育成を目指す。 （３）電子機械科 　機械と電気および情報に関する基礎的・基本的な知識・技能を連動させることで、製品づくりにおける統合的な技術を理解し、創造的な「ものづくり」ができる情操豊かな技術者を養成する。 　また、Design：設計　Assembly：試作　Trial：試行　Explain：説明（ものづくり DATE サイクル）を積み重ねることにより、製造業の担い手の育成から“Society5.0 新たな社会”に対応できる人材の育成を目指す。 （４）情報技術科 　AI やコンピュータを活用するソフトウェア技術、IoT を活用するネットワーク技術、電子制御を活用するハードウェア技術、３DCG や動画編集などのマルチメディア技術等を習得し、各分野で活躍できる創造性豊かな技術者を養成する。 　また、成長著しい情報技術分野の幅広い学習を通して自ら学び、課題解決に向けて取り組むことが出来る人材の育成を目指す。 **４　学科間連携** （１）機械工学科、電気工学科、電子機械科、情報技術科の 4 学科間での連携を深めるため、課題研究を全科同時開設として学科間で連携した研究を推進する。 （２）共通科目を設定し、すべての生徒が各科の特徴的な学びをとおして広い視野と柔軟な発想を身に付けられる工業教育を目指す。 （３）「ものづくり工房(仮)」を設置し、全ての学科生徒が使用できる場所を整え、「ものづくり」の環境を充実させる。

学科間連携

長野県岡谷工業高等学校

「地域産業の担い手として岡谷から世界へ！」

―― 世界で通用する技術力と発想力を磨こう ――

共同課題研究実施

4学科に統合

ものづくり工房（仮）設置

機械工学科

自動車などの部品をつくる技術を学びます

- 加工
- 組立
- めっき

電気工学科

電気を使って生活を支える技術を学びます

- 回路
- 通信
- エネルギー

電子機械科

機械と電気を組み合わせて社会に役立つ技術を学びます

- 製図
- 制御
- 設計

情報技術科

情報技術でくらしと社会を支える技術を学びます

- ネットワーク
- プログラミング
- AI

令和８年度から工業の学習内容を整理・統合し、新しい学びがスタート！

②上伊那農業高等学校　全日制

学校名	新学科名	新学科の概要
上伊那農業	つくるマネジメント科 流通マネジメント科 くらしマネジメント科	**１　改編理由** 上伊那農業高校は、平成 30 年に「上農で、私と伊那谷をデザインする」のスローガンの下学科改編を行い、「生物生産科」「生命探究科」「アグリデザイン科」「コミュニティデザイン科」の４学科８コースを設置し、農業を通した実践的な学びと地域での探究活動を通して自分と地域をデザインできる生徒の育成を目指してきた。 学科改編から 7 年が経過し、「農業」を教材とした学びは、専門的な知識や技術を身につけるだけではなく、人間力を養うための学びとして定着し、地域や企業等からも一定の評価を得ている。 そこで、これまでの成果と上伊那総合技術新校開校に向けた地域社会からの期待に対応し、社会生活に近い実践的な学びと地域での探究活動を通して、自分と地域をマネジメントできる生徒、さらには時代や社会の変化に対応できる生徒の育成を目指し、学科改編をする。 学校の中をひとつの社会ととらえ、「つくる」「流通」「暮らし」をキーワードとし、伊那谷での社会生活と連動した学びを構築することで、上伊那総合技術新校に接続されるべき学びの姿に位置づけ、 工業⇔商業⇔農業　がつながるよう学びの体系を整理し、生徒の多様な進路実現を目指す。 **２　育成したい生徒像** 「探究する心を育み、マネジメントできる生徒の育成」 深く考え、本質や原因を見極め、知識を深めながら、意思を共有し、共に創意工夫する生徒を育成する。 （１）生命と向き合い、生命に問う学びをとおして、自分の人生を探究していける生徒。 （２）時代や社会の変化に対応した探究的な活動をとおして、活力ある伊那谷の暮らしづくり（ものづくり・産業づくり・社会づくり）に尽力できる生徒。 **３　学科の内容と学びの特徴** （１）つくるマネジメント科 作物・花き・果樹・野菜分野を中心に学び、自分の将来とのつながりを見通しながら、地域の課題等についての理解を深め、持続的環境社会のものつくりマネジメントをとおして、社会に貢献する人材の育成を目指す。 ○アグリフィールドコース 作物や果樹の栽培を通じて地域の特産物や持続可能な農業を探究的に学ぶことをとおして地域農業や多様な産業を担うために必要な資質・能力を育み、地域で活躍できる人を育てる。 ○ライフ園芸

		花き、施設等での野菜を中心とした生物資源の応用や持続可能な農業を探究する。生命の大切さや人の恵みに感謝する心、園芸を楽しみ生活に潤いを得ることのマネジメント力を養う。 （２）流通マネジメント科 健康で豊かな暮らしのビジョンを掲げ、生命に学び、地域環境に働きかけ、持続的な発展をマネジメントできる人材の育成を目指す。 ○動物コース 命の誕生から、育成・加工・販売を通して、畜産とそれにかかわる産業の持続的な発展を目指す力を養う。 ○フードコース 地域の農産物や食品産業に着目し、科学的な観点も踏まえ製造加工・販売を通して農業とそれにかかわる産業の持続的な発展を目指す力を養う。 （３）くらしマネジメント科 森・里山・地域などの身近な環境をフィールドにして、そこで暮らす人々との関わり方をグローバルな視点でとらえ、働きかけることを通して、より豊かな社会をマネジメントできる人材の育成を目指す。 ○地域とくらしコース 地域をフィールドに、伊那谷の農文化・歴史・資源を知ることで地域愛を形成し、伊那谷の暮らしに根差した探究活動を行う。暮らしに関与している目には見えない要因に着目することで、物事が多角的な視点で見えるようになり、空間デザインを構築し、研究成果として発信する力を養う。 ○里山コース 森林の多面的な機能を見直し、森の循環づくりを次世代に引き継ぐ。また、身近にある森林資源の新たな価値を生み出すことで、自らの生活に取り入れながら森に寄り添う持続可能な暮らしをマネジメントできる力を養う。 **４　学科間連携** （１）　３学科共通として、経営・ビジネス、国際交流・観光・キャリア教育、地域活性化に関わる探究的な視点の持ち方や、探究活動を深めていくプロセスを学ぶことができる。 （２）　入学後に農業学習の基礎・基本を学びつつ、６コースの内容を全て体験し、自分のコースを選択する。３年次はそれまでの学びを融合させつつ伊那谷のみなさんと協働し、上伊那農業高校の学びの集大成として、「課題研究」を３学科同時開講し、地域の課題発見と課題解決に向け活動する。

令和８年度に 長野県上伊那農業高等学校は 変わる上農

くくり募集
３学科６コースに変わります。

育むチカラ
生徒育成方針

探究する心を育み、マネジメントできる生徒の育成

ふかく考え、本質や原因を見極め、
知識を深めながら、意思を共有し、
共に創意工夫する生徒を育成します。

人生と伊那谷をマネジメントできる生徒

問う力	観察と思考から、内発的な問いを立てるチカラ
人間力	生涯にわたり学び続け、科学的に考え行動するチカラ
基礎学力	自己肯定感を持って、共に社会に関わるチカラ

※マネジメントとは、物事を協働して前に進めることができる力のこと

ステップアップ カリキュラムマップ
教育課程編成実施方針

１年次 / 基礎
- 共通教科（普・農）での基礎的な学習
- ６コースすべての体験的な学習

２年次 / 発展
- 伊那谷での社会生活と連動した学習
- 自分の人生を自らデザインする学習

３年次 / チャレンジ
- コースの特性を生かした実践的な学習
- 自分の可能性を広げる探究的な学習

３学科共通として、国際交流・観光・キャリア教育・地域活性化に関わる探究的な視点の持ち方や探究活動を深めていくために地元産学官民と繋がりながら学ぶことができます。（官民共創のまちづくり、木曽谷・伊那谷フォレストバレー、信州大学農学部との共同研究等）